

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570107664		
法人名	社会福祉法人成光会		
事業所名	グループホーム ひふみ		
所在地	秋田市上北手百崎字ニタ子沢1-6		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

秋田市南部の小高い丘の上であり、四季折々の景色を楽しむことができます。コロナ禍においては、思うように外出はできませんが、法人内の栄養士、理学療法士の協力を仰ぎ嗜好を考慮した美味しい食事やホーム内でのレクリエーションで気分転換や体調の維持が出来るようにしています。「認知症高齢者」が認知症を持った「幸齢者」になれるように努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和4年2月16日		

運営推進会議の前身はホームの家族会であったとのことで、9名の利用者のほぼ全家族が運営推進会議に参加している。家族会が運営推進会議として機能しており、ホームと家族のコミュニケーションがスムーズである。19年経過した建物とは思えないくらい、とてもきれいで清潔である。全室が畳と障子の和室となっており、入居希望の家族からとても好評とのこと。利用者もスタッフも現在は女性だけであり、スタッフ個々の希望等に配慮してくれる働きやすい職場である。時間がゆっくりと流れ、春には桜の花吹雪、秋には落葉が楽しめる。高台に位置するホームの窓からは市内が一望できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

グループホーム「ひふみ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆとり、いたわり、思いやりを理念として認知症を持つ一人の「人」として尊重し、認知症の進行と症状を共有し、理念の実践に取り組んでいる。	開設当初からの「ゆとり・いたわり・思いやり」の明快で分かり易い理念は、今も大切に引き継がれている。認知症を持つ人を一人の“人”として尊重し、その人の視点や立場に立って理解してケアを行うイギリス生まれの、「パーソン・セントード・ケア」を全面的に採用し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、地域の保育園や福祉施設、商業施設等に入出入りしているが、感染予防の為に中止している。日本赤十字社秋田看護大学の介護実習は受け入れている。	隣接する秋田県特別支援教育・療育の拠点である「あきた総合支援エリアかがやきの丘」、近隣の障害者支援・児童入所施設や保育園等から、夏祭り等の催しに招待され、利用者と連れ立って参加することを楽しみにしている。同法人の介護老人保健施設かみの里が敷地内の目と鼻の先であり、保育園との交流やボランティアによる催しにも参加している。地元で採れた新鮮な野菜・果樹、花や加工品が揃う近隣の直売所に利用者といつも出かけているとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	入居申し込み書を渡す時や受け取り時に丁寧に説明できるようにしている。また、介護相談を受けた時も丁寧な説明を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三密にならない様にグループに分けて実施している。地域包括支援センターからも情報提供頂いている。日常生活の様子や身体拘束についての報告、ヒヤリハット・事故についても報告を行っている。	運営推進会議の前身はホームの家族会であったとのことで、9名の利用者のほぼ全家族が運営推進会議に参加している。家族会が運営推進会議として機能しており、ホームと家族のコミュニケーションがスムーズである。	運営推進会議議事録に、当日参加できなかったスタッフが内容を確認しサインしているが、参加者欄の下にサインしており、第三者にも区別できるよう、様式を工夫することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ファクス等で情報を得ている。アンケートにも協力している。分からないことは、直接電話している。	利用者の3回目のワクチン接種について、利用者それぞれのかかりつけ医ではなく、隣接の介護老人保健施設で接種できるよう市と連絡調整を重ね、実現することができたとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会が中心になって定期的に研修を行っている。	品質マニュアル(ISO9001取得)に身体拘束防止に向けた内容が確認でき、関係書類も整備され、法人内のネットワーク化により、関連書類や関係書式を容易に取り出すことを可能にしている。そもそもホームでは身体拘束は厳禁であり、過去にも該当した例は無く、家族会会長による、身体拘束防止に向けた定期研修を実施していることの確認がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	秋田市市役所の出張講座を受講している。定期的に内部研修を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	補佐人制度を利用している方がおり、制度については学習中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談受付時、契約時、制度改正時、ご家族への説明を行っている。疑問がある場合は都度丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等のやり取りに、職員も含め共有できるように「用件伝達シート」を利用し、細かな情報伝達を大切にしている。運営推進会議に欠席された家族には議事録等を配布し伝達している。	「ひふみのひととき」と題した、利用者の表情満載のホーム便りが春・夏・秋・冬の年4回発行されている。各々の家族宛てに本人のホームでの生活の様子の写真や連絡事項等が記載されたものを、毎月郵送している。家族会(運営委推進会議)の存在が、家族との良好な関係につながっている。家族からのホーム宛ての手紙が、随所に掲示されており、家族から信頼されていることが伺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	パソコン管理されている目標管理制度のHR Brainに意見要望を記入したものを管理者、理事長が確認している。利用者の状況や日々の気づき等には「連絡ノート」を活用し確認している。	経営計画に基づき、年度毎にスタッフ個別の目標を掲げ、理事長まで回覧することで、スタッフからの意見や提案に対する法人としての対応に繋がっている。スタッフ間の人間関係が良好で、質の高さも感じられる。スタッフが学びたい内容を研修できる体制が、ケアの質の向上に寄与している。利用者もスタッフも現在は女性のみとのこと。スタッフ個々の希望等に配慮してくれる働きやすい職場である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得推進奨励制度がある。申請により給料に反映されている。勤務環境については、家庭事情や本人の状況も考慮し、柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、HR.Brain、内部研修、外部研修等法人としての教育システムがあり、各自目標を持って行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修、南部地区勉強会には、コロナ渦ではあるが可能な限り参加している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、担当ケアマネージャー等から事前に生活歴などの情報を聞き、入居後の生活に役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望等を「入居事前調査報告書」に記載し、スタッフ全員が把握している。入居後の様子等も電話や面会時報告している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をする中で本人が出来る事を見つけ家事を一緒に行っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やメール、はがき等でのやり取りがある。面会は県・市の指導に基づいて随時していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診や美容院等に外出してもらっていたが本年度は、感染予防の為家族、本人の許可を得てホームで散髪している。	馴染みの美容院と病院は原則家族が付き添うという法人の方針が、家族とのドライブや外食、外泊につながっており、家族等との関係を途切れないようにとの配慮であることが推測された。家族から郵送された写真が居室のあちこちに貼られていた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほぼ全員がリビングで過ごしており、入居者同士声を掛けあったり、談話されている姿が見られている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は、サマリーをお渡しし、継続的に介護ができるよう支援に努めている。退去者の家族からお礼のはがきや電話連絡等を頂いている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が生活の中でどんなことを求めているのかを日々の会話や表情の中からくみ取るように努力している。意思や意向が上手く表現できない方にはパーソンセンタードケアを基にその人の立場に立って思いや行動、観察の中で意向を把握している。	おいたちや元々の性格や傾向を普段から把握することが、利用者が混乱した際の対応へとつながるとのこと。介護する立場を優先するよりも、利用者同士の声かけの方が本人の安心につながる経験を、数多く有している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネージャー等からそれまでの生活状況をお聞きし、ご家族も分からない生活歴等は、ご本人との会話等から情報を得ている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、療養記録、カンファレンス等の記録、スケール測定の記録等で状態把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人からの要望又は毎日のカンファレンス、月1回のケアプランカンファレンス、生活リハビリの評価等を参考にしている。日々変化する入居者への対応は連絡ノートを活用し、全職員が同じ対応が出来るように配慮している。	情報収集を通じて「その人らしさ」とは何かを検討し、こころと身体の両面から、食生活、生活リズム、医療など、職員間での介助方法をスタッフ間で統一することで、その人らしさが取り戻されるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャート式の記録をし、いつ誰が見ても分かり易く情報共有に繋がっている。温度表にアクティビティの参加状況、受診、臨時薬や処方変更等あった場合は記入し、分かり易くしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の保育園、学校、施設、地域包括支援センター、グループホーム連絡会との交流あり、繋がりを大切にしているが、コロナ禍の為参加できないこともある。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自にかかりつけ医がおり、定期的を受診し、健診、予防接種も受けている。体調変化時は連絡し、指示を受けている。状態の変化等があった場合、職員が同行している。同行できない場合には状況説明を記入した文書をご家族に渡し、かかりつけ医が状況を把握できるようにしている。	入居前のかかりつけ医の継続と、家族の通院付き添いを基本としているが、希望や事情によりかかりつけ医を変更することもある。入居前からのなじみの薬局を継続して利用している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名が勤務しており体調管理をしている。体調に変化があったときは早めに家族と連絡をとり、一緒に受診したりしている。救急受診時は、同行している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退去時はサマリーをやり取りしている。体調不良時には受診に同行し、直接関係者に情報を伝えている。入院中は、医療ソーシャルワーカーと随時情報交換を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、重要事項説明書に記載し、入居の際に説明し同意を得ている。要介護3になったら希望の特別養護老人ホームの見学、申し込みをし、次の暮らしの場への移動がスムーズにできるよう支援している。	重要事項説明書の「重度化した場合における対応に係る指針」に、看取りは実施しないことが明記されている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時、事故発生に備えて応急手当、初期対応の訓練を行っている。救急受診に備えて「緊急時対応シート」を準備している。コロナ対策の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として消防計画がある。防火管理者の立会いのもと年数回避難訓練をしている。非常時の食品、物品を備蓄し、期限切れを確認している。(コロナのため消防署の立会いは行っていません)	水害や津波の心配のない高台に位置している。隣接の老人保健施設とは緊急時の協力関係が構築しているが、避難訓練はホーム単独で実施している。主に春は夜間想定、秋は日中想定その他、地震を想定した訓練も実施している。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアの考えに基づき個別性を踏まえたケアを心掛け努力している。	その人の視点や立場に立って理解しながらケアを行う考え方を導入しており、何を必要としているのか、何を求めているのかの理解に努め、一人の人間として無条件に尊重されることを重要視し、日々のケアを実践している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スケール測定を踏まえて一人一人の健康状態、性格、個性を尊重し自己決定できるように声掛けをしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間は決まっておらず一人一人その日のペースに合わせている。天気の良い日は散歩やドライブで気分転換を図って頂いているが、コロナウイルス流行の為出来ないこともある。低体重の方が食事をゆっくりと摂取することにより体重、血清アルブミン値が増えている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされている方は、化粧品の補充を行い、身だしなみを整えるお手伝いをしている。自室で化粧出来るよう配慮している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る時は入居者の希望や好きなものを取り入れるようにしている。季節の旬の食材を使用したり、行事食も楽しんで頂いている。調理から後片付けを一緒に行っている。	献立はスタッフが持ち回りで作成しており、週毎の管理栄養士からのアドバイスが確認できた。赤飯は特に利用者から好評、キリタンポやおはぎ、蒸しパン、手作りいちご飴等々、利用者と共に調理している。回転ずしやハンバーグチェーン店での外食も楽しんでいる。それぞれの誕生日には家族会から全利用者にケーキがふるまわれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量をチェックし、月初めに体重をチェックしている。体調や状態に応じた食形態を心掛け、水分不足にならないように適宜水分補給を心掛けている。 本人希望の飲み物も取り入れている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はお茶をすすめている。一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。必要時は、歯科往診を受けている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	清潔保持を保てるように、個々に合わせた排泄介助を行っている。排泄チェック表を利用し、パターンを把握し、声掛けをしている。ポータブルトイレを使用している方もおり、清潔保持の留意している。	9名の利用者全員の排泄状況が一目で分かる排泄チェック表を利用し、水分補給も含め時間軸に把握できるよう工夫され、個々に合わせた排泄介助が行なわれている。ポータブルトイレ利用者は2名とのこと。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や風船バレー等を取り入れ入居者様が楽しみながら体を動かせるように配慮している。水分摂取に努める他、乳製品やオリゴ糖等を利用し自然排便を心掛けている。慢性の場合は主治医に相談し下剤を利用している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。入居者の体調、夜間の睡眠状態、食事量等を考慮しつつ、希望に合わせて入浴して頂いている。入浴に対して拒否がみられた場合は、入居者同士の声掛けや入居者個々にあった対応を心掛けている。安全に配慮し介護用具を利用している。	入浴したがる傾向の方には、まずは声かけ、次にタオルを持たせる、トイレ誘導しながら浴室に誘導する等、様々工夫しており、無理強いをしないよう配慮している。入浴すると穏やかになってくれるとのこと。毎日午前に入浴を実施しているが、最低でも一人あたり週に2回は入浴できるよう配慮している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の個々に合わせて、アクティビティや散歩等を取り入れ安眠出来るように工夫している。不眠の訴え時、飲み物や軽食の提供、話を傾聴して、不安を取り除けるよう寄り添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れやミスを防ぐ為に複数回チェックをしている。副作用が疑われる場合は、医療機関や薬局に問い合わせをして指示を受けている。内服薬について変更がある場合は、日誌や療養記録に記入、カンファレンスでも情報共有に努めている。不要な薬の服用を防ぐため医師と情報交換している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意なことを活かして、一緒に楽しみながら家事参加を実施。役割を持つことで、自信へと繋がっている。また、庭で野菜を育て食への楽しみを作ったり、中庭を通る野生動物を見て楽しいでいる。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出する際は、歩行状態、排泄等について説明しています。コロナウイルス流行に伴い、外出する機会が減少していますが県の警戒レベルに合わせて面会を工夫している。	千秋公園での花見、彌高神社、水心苑、ブルームッセ秋田、ダリヤ園、秋田空港、徒歩で近くの公園へ等々、あちこちに出かけている。直売所いぶきの里へは行きは歩きで、帰りは車とのこと。介護老人保健施設かみの里の敷地を一周することが馴染みの散歩コースである。冬は広く長いホームの廊下を活用している。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり金として管理してし、必要な物があれば職員が代行購入している。以前は一緒に買い物に行っていたがコロナ禍の為、現在は自粛している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務室の電話はいつでも利用可能。家族からの電話はご本人に取次ゆっくりと話ができるようにしている。手紙等はやり取りのお手伝いをしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハイター液、アルコール等で毎日消毒を行っている。居室は畳の為家族も宿泊できるようになっているが、コロナ禍の為自粛している。	19年経過した建物とは思えないくらい、とてもきれいで、清潔である。気になる臭いは一切感じられない。時間がゆっくりと流れ、春には花吹雪、秋には落葉が窓から眺められ、高台に位置するホームの窓からは市内が一望できるうらやましい環境にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者同士のつながりを大事にもらえるようリビングソファの他、廊下、玄関等にベンチを設置している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は家族も宿泊できる広さになっている。面会時やその時の写真を飾り、本人が使いやすいように配置にし生活しやすい部屋作りをしている。	全室が畳と障子の和室で、とても綺麗で清潔。各居室には家庭用の手洗い、エアコン、床暖、スチームが設置されている。畳は替えたばかりとのことで清潔な印象。和室は入居希望の家族からとても好評とのこと。各居室には家族の写真が沢山掲示されている。各居室の入口引き戸に、本人の作品や数々の写真が貼られ、居室間違いを防止する効果も期待される。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札や写真の目印につけ、建物内部には手すりを設置し、安全に移動できるようにしている。		